



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴鳥イ言

「やればできる」 保健体育科 染川 隆二

中学三年生の時のテレビドラマ「飛び出せ！青春」の主人公であった高校体育教師でサッカー部の監督に憧れ、私の将来の目標は決定しました。

高校から始めたサッカーが、自分の生活の中心になるとは思ってもいませんでした。現役サッカー選手として、あるいは指導者としていろいろ経験させて頂き、自身が成長したといっても過言ではありません。その基盤となったのが、当時大学日本一だった日本体育大学サッカー部での四年間でした。上下関係の厳しい大学で、一年生の一年間は忍耐の一年間でした。人間として耐えること、我慢すること、苦しんでも頑張ることなどその後の人生で役に立っています。また、二百名以上の部員の中で二年生からレギュラーになり関東リーグ等の公式戦に出場できたことも大きな自信になりました。

しかし、中学校からの夢だった高校の体育教師（高校サッカー部の監督）への道は、大学卒業後も大変厳しいものでした。教員採用試験という大きな壁との戦いでした。当時は高校体育の採用はなく、しかたなく中学校体育を受験するも不合格。この苦しい時期を乗り越えられたのは、大学時代に経験した忍耐しかなかった。通信教育で小学校免許を取得し、採用試験のピアノの実技も何とかクリアして採用試験六回目の挑戦にして小学校の教諭として長島の川床小学校に赴任しました。正式な教員になれた喜びと、目標にしていた高校体育教師になれなかった悔しさもありました。二十七歳にして正式採用。川床小学校でのやんちゃな子ども達との生活は、高校教師では経験できないことを味わえ、私にとって充実した四年間でした。また、長島に初めてサッカー少年団を作りサッカーの種をまきました。このまま小学校教諭でもいかならと思っていました。

4月の行事予定

4月		学年始休業日
1	㊤	
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	
6	金	新任式 前期始業式 中掃除 復習考査(2・3年) 写真撮影(2・3年)
7	㊤	
8	㊤	
9	月	第72回入学式
10	火	対面式 新入生テスト 復習考査(2・3年) 1年オリエンテーション(1) 1年写真撮影 学校安全の日
11	水	1年オリエンテーション(2) 50分6限授業 胸部検診(1年,職員)
12	木	1年オリ(3) 部活動紹介 尿検査(1次) 午後45分授業
13	金	職員研修(心肺蘇生) 尿検査(1次) 45分授業
14	㊤	
15	㊤	
16	月	学年朝会 生徒指導特設LHR① 体育保健合同委員会
17	火	健康診断(3年)
18	水	健康診断(2年) 甲鶴戦合同LHR
19	木	創立記念日 創立記念式典・講演 健康診断(1年)
20	金	甲南鶴丸スポーツ交歓会
21	㊤	
22	㊤	
23	月	全校朝会 保健委員会 いじめ問題を考える講演 スクールカウンセリング
24	火	心臓検診(1年,職員)
25	水	身体測定 尿検査(2次)
26	木	PTA評議員会 尿検査(2次)
27	金	一日遠足
28	㊤	
29	㊤	昭和の日
30	㊤	振替休日
		自転車車体検査 通学マナー指導

勤が決り、中学校から憧れていたテレビドラマの「飛び出せ！青春」の主人公である、高校体育教師と高校サッカー監督の夢がいに実現しました。福山高校に四年間勤務した後、長島高校に転勤になりました。当時、長島高校は生徒数も少なく、学校全体の活気がない状態でした。またルールを守れない生徒もいて、私も一年目は、ストレスがたまり学校に行くのがいやな時が何度もありました。このような状態では健康に悪いと思います。「どうせ七年間いらいといけぬのだから、いやな七年間より、楽しい七年間になるように学校を変えよう」と考え方をプラス思考に転換し、強豪校（鹿実など）を招待しての全校生徒の前での招待試合開催など、部活動を通じての学校活性化を図りました。また、川床小学校でまいしたサッカーの種が、サッカー経験者が入学してサッカー部へ入部したことで、長島高校二年目から花開いてきました。三年目には、全国高校サッカー選手権北陸予選を突破し、県大会初出場を果たしました。このニュースに地域も盛り上がり、長島サッカー協会も発足し、ポテト杯（小学校）・染川杯（中学校）などの大会も毎年開催されるようになりました。結局、七周年で三回県大会にも、部員は学校でのリーダー的存在になりました。本気で生徒達に向き合っていた結果が、長島高校の活性化だけでなく、地域の活性化にもつながり、私にとって長島高校は忘れられない勤務校になりました。

その後、部活動の盛んな鹿児島商業高校に七年、毎日片道一時間の通勤を頑張った川内商工高校での八年間の勤務を経て、三年前に鶴丸高校に赴任しました。私にとって教員生活最後の勤務校になりました。鶴丸生との関わりを持つようになり、いろいろな場面で鶴丸生の頑張る姿を目にできました。時間に追われた厳しい環境での生活を通じて東大をはじめ難関大学へ進学していく鶴丸生。特に



短期海外研修 in ニューヨーク 創立百二十五周年記念事業

三月四日十三日にかけての十日間にわたって、二年生八名、一年生二名の十名の生徒と引率教諭二名の計十二名がアメリカ合衆国のニューヨークを訪れました。これは平成三十一年度迫った創立百二十五周年記念事業の一環として、今年度から前倒しで始まったもので、研修にかかる費用については記念事業の募金により全額負担していただきました。生徒たちは、現地でホーモステイ、現地高校への通学（授業・高校生との交流）、国連本部見学、コロンビア大生との交流（大学生との交流）、ニューヨーク

部活動をしながら文武一道の精神で頑張っている鶴丸生には頭が下がります。これからの君たちの人生において、幾多の壁が待ち構えていると思います。コソコソ頑張る鶴丸生ならきつと乗り越えることが出来るでしょう。「やればできる」自分を信じて頑張ってくださいと思います。素晴らしい生徒達と関わられた鶴丸高校での生活は非常に充実していました。生徒の皆さん本当に有り難うございました。

在住同窓生との懇談などを経験することができました。生徒たちの感想の中からいくつかを取り上げて紹介します。

私はこの研修を通して「Diversity（多様性）」について深く考えるようになった。日本とは対照的に、アメリカにはあらゆる人種、信条の人が暮らしています。そのため、わかり合う文化を持つ私たち日本人はそれを意識してコミュニケーションをとる必要があると事前の研修で学んでいました。しかし、実際に訪れてみると、言語の壁もあって、実際に訪れてみると、言語の壁もあって、そのようにコミュニケーションをとるのはなかなか難しく、動揺することもありました。どちらの文化も経験することで、日本とアメリカ、両方の文化の良さを感じることができました。

研修中、特に「Diversity」を感じたのは、現地校で受けた授業の中で、先生が「自分のアイデンティティを形成しているものは何か」という質問をしたときです。教室には様々な国出身の生徒がいて、中国出身の生徒は教育の面から、メキシコ出身の生徒は祝日の面から、アメリカと自国の文化を比較して、アイデンティティについて語っていました。日本では他国の文化については推測でしか話すことができませんが、一つの国にいながら様々な文化を学ぶことができるのはアメリカの魅力だと思いました。

お知らせ

この春の人事異動が発表になりました。これまで本校の発展に寄与して下さった先生方、本当にありがとうございました。

氏名	教科等	転出先等
鶴田紋太郎	教 頭	高校教育課 主任指導主事 兼 高校振興係長
山床 良広	事務 長	文化財課長
福久 高文	国 語	期限付退職
梶原 武	地歴公民	加治木高校
中村 浩二	数 学	川内高校
福崎 功	数 学	期限付退職
東 健一	理 科	伊集院高校
新村 大樹	保健体育	保健体育課 高校総体推進室 指導主事
大倉 秀心	英 語	伊集院高校
春花 政浩	事務次長	県立図書館奉仕課長

※研修の様子は、鶴丸高校のホームページに掲載されています。

（二六R） 別枝 寛仁